

事例名 **国連宇宙空間平和利用委員会議長としての活動**

受賞者 **国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 堀川 康 氏**

事例の概要

受賞者は、平成24年に日本人初の国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）本委員会の議長に就任し、2年間その議長職を務めた。COPUOSは、旧ソ連が世界初の人工衛星を打ち上げた1957年の2年後、1959年に設置された。近年、民間企業も含めた各国の宇宙活動が多様化・活発化する中で、宇宙活動に関するルールづくりと国際協力を推進するCOPUOSの役割は一層高まり、加盟国は83か国となる（2015年）。同氏は、宇宙分野における国連の活動に議長職を通じて貢献し、国際社会における宇宙の平和利用の推進に大きく寄与した。特に「持続可能な開発」という国連の目標を踏まえ、議長在任中に発展途上国支援を考慮した『宇宙技術による「持続可能な開発」への貢献』をCOPUOSの主要テーマとする提案を行い、加盟国から幅広い支持を得た。

ポイント・具体的成果等

1. 市場拡大への貢献

堀川議長は、宇宙技術による持続可能な開発への貢献を軸とした議事運営を行うとともに、関連する作業部会の議論を推進した。本議論には、ビジネスを含む宇宙活動に関する国内法整備の議論が含まれており、国連総会決議として、宇宙空間の平和的探査・利用に関する国内法整備勧告が採択された。各国国内法は本決議内容を踏まえて整備されることが推奨されており、宇宙活動の市場拡大を進める素地を整えることに貢献した。

2. 産業、生活、行政の高度化及び効率化への貢献

同氏が議長就任中に推進した作業部会の議論として、国際協力のメカニズムの評価、及び宇宙物体の地球への突入に関する監視および予防のための国際的な組織づくり等がある。これらを通じ、当該分野の国際協力を推進するとともに、各国の情報交換を進め、協力体制を整備することを通じて、当該分野の宇宙活動の高度化及び効率化に貢献した。

3. 技術への貢献

COPUOSでは、「人類の持続可能な開発」と共に、「宇宙空間の長期的持続可能性」が昨今の主要議題となっている。これは、スペースデブリ等の増加により宇宙活動が悪影響を受けることを懸念し、科学技術の専門的知見に基づいたガイドラインを作成するものである。各国から様々な意見が出される中、議長として培った幅広い人脈や各論点に対する総合的判断能力を活かし、確実な議事運営に貢献した。

4. 普及啓発への貢献

議長在任中、90件以上の講演会、シンポジウム等に参加し、COPUOS外の多様なコミュニティに対し、COPUOSの取組に関するアウトリーチ活動を精力的に行った。例えば、国際宇宙探査フォーラム（ISEF）、地球観測に関する政府間会合（GEO）、地球観測衛星委員会（CEOS）、国連軍縮研究所（UNDIR）、国連持続可能な開発会議（リオ+20）、第5回アフリカリーダーシップ会議、アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF）、国際宇宙会議（IAC）等での講演等が挙げられる。加えて議長擁立以来、すべての本委員会や各小委員会に参加し、期間中に開催される各種セミナー等で講演を行うことで、COPUOSひいては国際的な宇宙コミュニティにおける日本の存在感を飛躍的に向上させた。



COPUOSが開催される
国連ウィーン国際センター外観



議長席の堀川氏



民間企業も参入する
将来の宇宙開発図（出典：JAXA）

問合せ先

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

〒101-8008 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ

03-5289-3600（代表） <http://www.jaxa.jp/>